

# 令和6年度 石塚保育園自己評価

●評価日 令和7年3月28日  
●評価者 園長 石塚 達義  
主任保育士 石塚 潤子

# 令和6年度 石塚保育園 自己評価

|   | 自己評価の観点   | 主な自己点検の内容  | 保育の振り返り 自己評価  |
|---|---|--|---|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>保育を行う専門家として、基本的な心構えを持っている</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>自身の健康管理と情緒の安定を心がけている</li> <li>気持ちの良い身だしなみ、明るい笑顔、元気な挨拶を心がけている。</li> <li>園内外の研修に参加したり、保育指針や専門書を読むなど、保育に関わる様々な知識や技能の向上に努めている</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども一人ひとりに挨拶し、話をよく聞き取り信頼関係を築くようにしていった。保育者が率先して元気な声でする挨拶に子どもたちも元気に挨拶を返してくれた。</li> <li>保護者には送迎時、朝は気持ちよく職場に向かっていただけのように、帰りはお疲れ様ですの気持ちを込め、また子どもの伝えなければいけないことやちょっとしたエピソードを話し、コミュニケーションをとるようにした。</li> <li>インフルエンザやコロナ感染症予防のためうがい、手洗いマスクの着用を励行した。</li> <li>保護者からの質問や相談を一人で判断せず、先輩や同僚の保育士に相談する姿があった。</li> <li>園外研修では終了後内容のまとめをしながら研修報告書の作成をし、保育に繋げ、知識を高めていた。</li> <li>園PCに今までの園内研修資料や、到着文書で保育者への資料が「保育参考・研修」箇所に随時見ることができるようにしていた。</li> </ul> <p>困ったことやわからないことがあった時は、研修で学んだことを参考に調べ、知識を高めるようにした。</p>   |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども一人ひとりの理解を深め、受け止めようと努めている</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの思いを大切にしながら一人ひとりに対応している。</li> <li>子どもが安心して話せるように向かい合っている。</li> <li>子どもに分かりやすい言葉や言葉遣い、表情で話をするよう心掛けている。</li> <li>「早くして」などせかす言葉や「ため」「いけないよ」等制止や禁止の言葉を不用意に用いないようにしている。</li> <li>「できない」「やって」と言う子どもに対して、その子ども</li> </ul> | <p>子どもの年齢や個々の状況に応じて対応しているが、おおむね</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3歳未満児には身振り手振りや喃語の様子から、言葉を代弁して思いを受け止め、相手がいる場合は小さいからと言って決めつけるのではなく、お互いが少しでも納得できるような方向に向けていった。<br/>「早くしようね」「こうして」と言いがちではあったが、子どもひとり一人が個性が違ふと考え、個々に適した対応を心がけた。イヤイヤ期の子どもの対応には苦慮したが、保育者が変わったり、他のクラスの保育者の手を借り気分を変えることで対応した。<br/>0歳は“ゆったり”と、1歳児では“少しずつみんなと一緒に”の対応により、子どもの不安な気持ちに寄り添い、安心感を与えるようにした。</li> <li>3歳以上児では自分の話を聞いて欲しいという我勝ちなところも出てきているが、なるべく安心して話ができるよう笑顔で順番を諭しながら話を聞いていった。その中に入ってこれない子どもには気を配り、一言言葉をかけたり、他の保育者とも情報を共有し対応をしていった。<br/>特性があったり成長がゆっくりの子どももいるため、できないことや不安に思っている時には助言をし、子どもが自分で「できた」という達成感を持たせた。<br/>「つくしんぼ」や「ほうあん」等の施設を併用している子どももいるが、できることが増えたりした時には喜びを共有するようにした。</li> <li>保育者の声が元気で明るいのはいいのだが、少し大きすぎたり、時に強く聞こえてしまうことから、注意を促す時もあった。</li> </ul> |

|   | 自己評価の観点  | 主な自己点検の内容   | 保育の振り返り 自己評価   |
|---|--|---|--|
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>遊びや生活を通して人間関係が育つように配慮している</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども同士の関係をよりよくするような適切な言葉かけをしている。</li> <li>喧嘩の場面では状況を適切にとらえ、双方の思いを伝え仲立ちし、しこりが残らないように対応している。</li> <li>年齢に応じた社会ルールを身に着けていくよう配慮している。</li> <li>当番活動を通し子どもが保育者の手伝いをしたり、あやとり等できる子どもが苦手な子に教え合うような、友だちを助けたり協力し合う場を持つようにしている。</li> <li>子どもの意欲を高めるような遊びの準備や配慮ができています。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>0歳児…保育者を仲立ちに、少しずつ友だちと一緒におもちゃを使ったり、同じ膝を共有したりと、関係を持つようにした。</li> <li>1歳児…噛みつきなどのトラブルも出てきたが、双方の思いを受け止め仲立ちを試みた。また、「痛かった」「貸してほしい」などの言葉を促しつつ、特定の子が噛みつきをしてしまう場合は、保育者が近くで見守り、また外遊びや室内に入る時などタイミングを少しずつずらし、噛みつきにつながる要素を除いていった。</li> <li>2歳児…順番が少しずつ分かるよう「かわりばんこ」「10数えるね」「順番だよ」といったルールを伝え、伝承遊びを楽しんで行った。おもちゃの片付けでは、自分の使ったものを友だちが横どりして片づけてしまった等の善意の争いごともあり、お互いの気持ちを聞き出し双方に伝え、納得できるようにしていった。</li> <li>3歳児…特性のある子が自分の思いが通らないとずっと引きずり、保育者におんぶや抱っこを求め、また言葉がたくさん使えるようになり、「仲間に入れない」「遊んであげない」と人の嫌がる言葉を気にせず使う子どももおり、自分が言われたらどんな気持ちかを考えさせるよう指導した。自分の思いを伝えられない子どもには寄り添い、少しでも言えるようになった時には認め、見守っていった。</li> <li>4歳児…特性を持った子が多いクラスで、急に怒り出したり、自分の話を聞いてくれ、自分が…と、相手の気持ちに気づかない子どもがいたが、みんなが楽しく遊ぶために大切なことをその都度伝えていったことで、相手の話を少しずつ聞こうとする態度が見えてきた。ドッチボールなどを年長児に交じって行い、ルールを守ったり、わからない友だちに教える姿も見られるようになった。</li> <li>5歳児…相手の気持ちに少しずつ気づき、怪我のお世話や優しい言葉がけの姿が見られるようになった。「あやとり先生」のバッチを作ったことで、あやとり先生を目指しあやとり先生に教わったりして仲間という意識が少しずつ生まれてきた。みんながうれしい気持ちになる言葉についても考えるようになり、いい意味「いしづかっ子」に成長してきた。</li> </ul> |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> <li>乳児保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>抱いて目を合わせたり、微笑みかけたりしながら、ゆったりと関わっている。</li> <li>しぐさや声や動きを介して発する欲求を察知し、タイミングよく応答している。</li> <li>身体を適度に動かし遊ぶ遊びやリズムを伴ったふれあい遊び、園庭での遊びや近隣への散歩を十分にしている。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>0歳児…機嫌のよくない子には特に思いを受け止め抱っこやおんぶをし、落ちついたり安心できるように関わった。喃語や一語文等言葉が出てきている子の話を受け止め、繰り返したり相槌を打つことで言語の獲得に繋げた。</li> <li>1歳児…音楽や体操が好きな子が多く、リズム遊びや運動遊びをたくさん行った。興味を持ったビデオの音楽に合わせて踊ったり歌ったりする姿もあった。言葉がまだ出ない子も多くいたが、その子なりのアピールや思いに気づけるよう、様子を観察し援助していきたい。</li> </ul>  |

|   | 自己評価の観点  | 主な自己点検の内容  | 保育の振り返り 自己評価   |
|---|--|--|--|
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の支援に努めている</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>園や家庭での様子を伝え合う中で、子どもの育ちを保護者と共に考え、喜び合うことができている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>園での様子を伝えながら、家庭でもやってほしいことは丁寧に伝え、園と家庭で連携して子どもの育ちを支えていくように努めた。（トイレトレーニング、食事、食具の持ち方、生活面他）</li> <li>連絡帳や送迎時、子どもの成長やかわいいエピソード、遊びの様子などを伝え、保護者と成長を喜び合い信頼関係を築くよう努めた。</li> <li>行事に向けて取り組む様子や成長がみられた姿を連絡帳や送迎時に伝え、家庭での会話や励ましのきっかけづくりをし、励ましのきっかけづくりをした。</li> <li>毎月のクラスだよりに次月の保育予定を載せることで、「今日は〇〇やるみたいだよ」「きょうは△△作ったの?」「じゃ家でも作ろうか?」と会話のきっかけや、保育園での様子を窺い知るきっかけになっている。</li> <li>登園を嫌がったり、友だちとの関係に不安な思いをしている子は、保護者自身も不安な気持ちになっていたため、保育の様子を見てもらい引き続き配慮することを伝え、不安を和らげるように努めた</li> <li>感染症が流行し始めたら張り紙や各家庭へ通知を出し情報を共有し、子どもの体調の変化が見られたときは連絡し、重症化や流行を防ぐようにした。</li> </ul>  |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> <li>職員間の連携が取れている</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>保育について、子どものことについて、報告、連絡、相談がなされ、意思統一ができている。</li> <li>それぞれの役割を把握し、突発的な状況に対して、適切な対応ができるよう務めている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>職員間でこまめに報告、連絡、相談し、共通理解に努めた。（子供の成長、気になったこと、子どもが怪我したとき、保護者からの連絡、保育内容、行事の内容、感染症の対応）</li> <li>保護者からの連絡、保護者に伝えたこと、その返答、ともに複数担任の保育者にその都度伝え、ボードにも書き、共有するように努めた。</li> <li>休みだった職員にも配布物や前日の様子や連絡事項を伝え忘れないようにした。</li> <li>前日発熱のあった子どもや怪我をしたこどもについて、朝礼で各クラスに伝えあい、ヒヤリハットの場面も同様にし、登園してきた子どもや保護者に状態を確認する等、気を配るようにした。</li> <li>職員の急な勤務交代にいやな顔をせず替わったり、体調が悪い様子の時など気遣い受診を進める場面も多々見られた。</li> <li>3歳未満児…保育者の人数が多いクラスだが、発達に弱さがみられる子や気になる子について、職員間で共通理解し対応したり、円滑に保育が進むよう自分の役割を考え状況判断し、適切な対応をするよう心掛けた。<br/>連絡帳等、家庭でのかかわり方や保育園での様子について質問があった際には担任間で共に考え、共通認識を持って対応した。</li> <li>3歳以上児…年齢別保育に異年齢保育もプラスした形での時間帯もあるため、3歳以上担任全員で子どものフォローをしあいながら保育することで、子どもたちの様々な成長につながり、成長にもつながった。</li> <li>ほかの保育士の意見やアドバイスをしっかり聞きつつ、自分の意見や思いも持ち、伝え合うように努めた。</li> </ul> |

|   | 自己評価の観点   | 主な自己点検の内容  | 保育の振り返り 自己評価  |
|---|---|--|---|
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> <li>「保育所・認定こども園等における 人権擁護のためのセルフチェックリスト」を使用した保育士の自己評価</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもひとり一人の人格を尊重する関り方をする</li> <li>物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけをしない</li> <li>罰を与える・乱暴なかかわりをしない</li> <li>ひとり一人の子どもの育ちや家庭環境を考慮する</li> <li>差別的なかかわりをしてはならない</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの気持ちを受け止め、ひとり一人の姿に合わせた声掛けや関りを意識して保育をおこなっていた。しかし忙しい場面であったり、「聞いて欲しい」「話したい」という子が増えてきた年齢ではすぐ聞いてあげられないこともあった。そのような場面でも「後で聞かせてね」と言って、外遊び中や時間がある時に聞くことができた。子どもを叱る時には何がいけなかったのかを子どもと一緒に考え、対応していった。0歳児・1歳児で、友達に噛みついたり押し倒したりする行動には特に注意を払い、発達に応じて一人ひとりの気持ち、意図を冷静にくみ取り、対応、配慮していった。忙しい時間帯には保育士間で声を掛け合い、余裕をもって関われる体制づくりを意識していった。お迎え時に保護者に伝えなければいけない話がある時は、声の大きさや場所を意識するようにしている。子どもたちの前でも個人の失敗などは大きな声で言わないように意識している。トイレトレーニング中で、まだ自分の排尿感覚がつかめていない子へ、排尿への促しをしてしまっていた。ただ排尿感覚がつかめている子に対しては無理に誘わず、自分のタイミングで排尿が行われるように声掛けを心がけた。排泄の失敗時、年中児はトイレの個室の中で人目につかないよう気を付けたが、年少児は皆のいる廊下で行ってしまっていた。年齢関係なく人目のつかないところで行うよう配慮していく。</li> <li>子どもたちがどのようにしたら楽しく活動できるか工夫することができている。名前の呼び方や言葉がけ、声の大きさにも意識的に心がけるようにしている。一人ひとりの関り方も個性豊かな子どもたちなので、その時その瞬間の行動を見逃さないように心がけている。他の保育者と共有、相談しながら知恵を出し合い良いかかわりが持てるように努めていきたい。子どもができた時には一緒に喜び、自信が持てるような声掛け声かけを心がけている。また失敗してもチャンスに変えられるような声掛けも意識している。「〇〇しないと〇〇できないよ」という声掛けには、気を付けていても声に出してしまっていることもあるので、声を出す前に立ち止まり言い換えられるようにしたい。今後は肯定的な声掛けをより意識し、気持ちに余裕のないときには他の保育者に相談したり、手助けを願う。声の大きさは気を付けてはいるが、つい子どもの声が大きいときはさらに大きな声を出してしまっていた。落ち着いたトーンで話をしていくように気を付けていく。怒鳴ったりしないよう心掛けており、子どもの行動をなるべく見守り、必要な時には「今なんの時間?」「どうしたらいいと思う?」などと、自分で考えて行動できるよう声をかけている。同様になかなか部屋に戻ることができない子には、あらかじめ部屋に入る時間を伝えて、子どもが気持ちの切り替えができるように配慮してほしい。危ない行動はきちんと本人に伝え、行うべき注意はしていった。細かい指示や繰り返される声掛けで、子どもたちの考える力の成長を奪ってしまう可能性もある。子どもたちへの指示が細かかったように思い、反省している。個々の子を観察しながら個別対応が必要な時は、自分一人だけでなく周りの保育者と連携して、声掛けや手助けしながら関わるようにしたので、引き続き行いたい。身体休めの際に寝ていない子がいても強要せず、身体を休める目的のため静かにしているよう伝えている。</li> </ul> |

|   | 自己評価の観点   | 主な自己点検の内容   | 保育の振り返り 自己評価  |
|---|---|---|---|
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> <li>「保育所・認定こども園等における 人権擁護のためのセルフチェックリスト」を使用した保育士の自己評価</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもひとり一人の人格を尊重する関り方をする</li> <li>物事を強要するようなかわり・脅迫的な言葉がけをしない</li> <li>罰を与える・乱暴なかかわりをしない</li> <li>ひとり一人の子どもの育ちや家庭環境を考慮する</li> <li>差別的なかかわりをしてはならない</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもに注意をするときは廊下に出る等、落ち着いた環境で話をするようにしている。だからといって廊下に立たせることはない。</li> <li>子どもとのかかわりの中で、保育者と子どもの相性が合わないときには、チーム内で声を掛け合い保育士がチェンジすることで、お互いが気分転換を図ったり落ち着いて向き合えるようにしている。</li> <li>午睡時には一人ひとりの入眠の仕方や安心できる関りをし、無理なく入眠できるよう関わった。また昼食も完食を目的とせず、子どもの食べるペースを尊重するよう保育者間で話し合い、対応ができています。</li> <li>お散歩の人数確認の時、頭をポンポンとしながら数えることがないようにしていた。今後も意識して気を付けていく。</li> <li>子どもに対して乱暴なかかわりをしないよう心掛けている。</li> <li>子どもへの暴言、暴力、虐待などはあってはならないことだと十分に承知している。声をかけても聞いていなかったりすると少し手を引っぱってしまうことがあったので気を付けていきたい。</li> <li>自分の言動が虐待につながっているのではないか、という確認意識を継続し続けていくことが目標。</li> <li>ボディタッチは優しくしてあげている。手を引くときも腕が抜けやすいので、優しく引くようにしている。</li> <li>罰を与えたり、乱暴なかかわりをせずに保育することができているので、今後も絶対にしないようにしたい。乱暴な関りはないが、ひとり一人に丁寧に関わっているかと考えると、自信がないので、そこを意識して今後保育をしていきたい。</li> <li>子どもに注意をするときは場所を変え、静かに感情的にならず、ダラダラと言わず短く済ませるように心がけていた。また、先に子どもの話を聞くようにした。</li> <li>子どもと接するときはなるべく丁寧に関わるようにしている。ゆっくりとゆとりをもって対応しようという姿勢で保育にあたっている。子どもとのかかわりの中で感情的になってしまうことがあるため、一呼吸置いたり他の保育士に声をかけたりと臨機応変に対応していく。</li> <li>0,1歳児で子どもたちが夢中になる遊びの際、怪我につながる危険な行動をする子には声掛けだけでは間に合わず、とっさにそれを食い止める対応を心がけているが、常に冷静な判断力と安心できる安全な環境を整えることを心がけています。</li> <li>余裕のないときでも、安心感を与える対応をしていきたい。</li> <li>1歳児でリレーで並んでいる時や固定遊具で遊んでいる時、順番を待てない子を手を引いて連れ戻すことがあったため、子どもが自ら戻ってこられるような言葉かけをしていきたい。</li> <li>1歳児、散歩に行くとき、ひとりを待っているうちに他の子が飽きてしまう時は、どうしても手をつないで輪の中へ連れ戻してしまうことがある。他の子が楽しく待っている工夫や、輪から離れて行ってしまったひとりの子への声掛けの引き戻し策をもっと増やしたい。</li> <li>優しく触れたつもりでも子どもにとっては乱暴なかかわりと感じてしまうこともあるので、そうならないように意識して関わるのができた。</li> <li>散歩中などとっさの時に思わず腕を引いてしまったことがあり、未然に防ぐ努力がもっと必要だと感じた。</li> </ul> |

|   | 自己評価の観点   | 主な自己点検の内容  | 保育の振り返り 自己評価   |
|---|---|--|--|
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> <li>「保育所・認定こども園等における 人権擁護のためのセルフチェックリスト」を使用した保育士の自己評価</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもひとり一人の人格を尊重する関わり方をする</li> <li>物事を強要するようなかわり・脅迫的な言葉がけをしない</li> <li>罰を与える・乱暴なかかわりをしない</li> <li>ひとり一人の子どもの育ちや家庭環境を考慮する</li> <li>差別的なかかわりをしてはならない</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもひとり一人の個性や多様性については十分に認識しているつもりだが、家庭環境の多様な実情を考慮する意識は今よりももっと持っていかなければ、家庭支援という任務はクリアできていないように感じる。保育者は子どもだけではなく、家庭支援や地域支援も重要な任務だという自覚を持ちたい。<br/>「休みの日の出来事」や「今日の朝ごはん何を食べたか」等聞く機会はあったが、全ての子が発言するのではなく言いたい子が拳手するようにした。水筒やポケットを忘れてしまう子が多かったが、責めずに「次は持って来てね」と声をかけた。<br/>家庭環境の伝達等を保育室内で伝えてしまうことがある。子どもたちの前で大っぴらに言うことはないが、子どもに聞こえてしまう可能性があるため、意識していく。<br/>子どもが泣いて登園してきたときや情緒不安定な時は子どもの気持ちを受け止めながら、スキンシップを普段より多くとったり、楽しく過ごせるよう遊びに誘ったりして、笑顔を引き出すようにしている。<br/>休日の過ごし方を子どもとの会話でつつい話してしまうことがあり、中には会話に入ってこれない子もいるので、様子を見ながら話題を変えるなどして蚊帳の外にならないよう気を付けていった。<br/>保護者に対する話し方は否定的な声掛けや話し方はしておらず、お迎えの時など時間に余裕のある時には「できたこと」「ちょっとしたエピソード」やうれしい出来事など、子どもの様子を伝えるようにしていく。<br/>保護者が子育てで悩んでいることや困っている時、子ども同士のトラブルのことなど保育者と相談したりするときは、場所を変えて落ち着いて話をできるようにしている。また、それぞれの家庭にはいろいろな事情があるので、かわり方には気を付けるようにしていく。一人ひとりの育ちや家庭環境に合ったかわりを意識して保育を行うようにしてきた。日々の生活や遊びの中での姿や、保護者との日常的なやり取りや、些細な会話から得たりと、子どもによって安心できるかわり方やその時の気持ちや発達段階に応じた声掛けや支援を行うことが大切だと感じた。<br/>様々な家庭環境や保護者の考え方あることを理解して対応している。<br/>家庭環境は子どもには責任があることではないので気を付けているつもりであるが、保育士同士の何気ない会話でも、子どもたちに伝わらないように十分に気を付けたい。<br/>お迎えが遅くて子どもたちも甘えたかったり不安になったりするので、優しく対応するようにしている。<br/>各家庭について理解をしているため、子どもの気持ちを傷つけたり、いやな思いをしないよう子どもの気持ちを考えて接することができる。<br/>子どもひとり一人違った環境で育っていることを忘れずに、子どもが傷ついたり不安になるような言葉かけをしないよう引き続き気を付けていきたい。<br/>保護者に対して一度苦手だと感じてしまうと距離を置きがちである。そこを自分で払拭し、きちんと対応できるようにしていく。またそのスキルを磨いていきたい。<br/>保育園での生活は成長の違いや家庭環境の違う個性を持った子どもたちが、安心して自由に自分を表現することができる場所であるように心がけると同時に、保育者自身が子どもたちにとって大切な存在になることがこの先も目標となる。<br/>登園が遅かったり紙パンツが交換されていないと、ついその事実を言葉にしてしまうことがあるので、子どもによっては気にしてしまうので気を付けたい。<br/>お迎えが遅く、残っている子どもが少なくなると不安になったり、寂しくなったりする子どもに対し、手をつないだり一緒に座ったりしながら、子どもが少しでも安心できるよう寄り添い、保護者に対しても明るく笑顔で送り出しできるようにした。</li> </ul> |

|   | 自己評価の観点   | 主な自己点検の内容  | 保育の振り返り 自己評価  |
|---|---|--|---|
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> <li>「保育所・認定こども園等における 人権擁護のためのセルフチェックリスト」を使用した保育士の自己評価</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもひとり一人の人格を尊重する関り方をする</li> <li>物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけをしない</li> <li>罰を与える・乱暴なかかわりをしない</li> <li>ひとり一人の子どもの育ちや家庭環境を考慮する</li> <li>差別的なかかわりをしてはならない</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>差別的なかかわりについては意識しており、男女別はもちろんのこと、人種差別にならないようクレヨンを使う時は「肌色」ではなく「パールオレンジ」というようにしている。</li> <li>小食な子に対しては勝手に減らしてしまうのではなく、個別で声をかけて量を相談するようにした。</li> <li>子どもたちには分け隔てなくコミュニケーションをとったり、積極的に関りをもって信頼関係を構築できるよう心掛けている。</li> <li>朝の挨拶や日中の関りでは特定の子どもに偏らないよう意識し、全体を見渡し、子どもひとり一人が大切にされていると感じられるかかわりを続けていきたい。</li> <li>子どもの気持ちを決めつけず、なるべく子どもの話を聞くようにしている。給食を減らす際にも減らしたい子のみ減らしたり、お製作の際にも好きな色を選ぶことができるように様々な色を用意するようにしている。引き続き子どもの気持ちに寄り添う保育を行うことができるようにしていきたい。</li> <li>クラスの中に個々の支援が必要な子どもが複数人おり、支援が必要な子どもへの関りも大切にしつつ、クラス全体をしっかりと見ていき、すべての子どもと平等に関わっていきけるようにしたい。</li> <li>子どもが「あの子はずるい」と感じてしまう言動に気を付けている。</li> <li>男女に関することをつい言うてしまうかもしれないので、今後も意識をもって気を付けていきたい。私たちの言動が子どもたちの将来に影響することをしっかりと頭に入れ、責任をもった言動をとっていきたい。</li> <li>登園時の挨拶は手を止めてでも一人ひとり明るく声をかけるようにしている。</li> <li>性別を理由にすべき言動は、日々意識して保育に励むようになった。常に性別だけでなく、ひとり一人の体形や成長、行動にもより一層人権に配慮した保育を心がけたいと心に留めた。</li> <li>手のかかる子どもへの対応が多くなりがちになることがある。かかわりの偏りが出ないように保育者間で連携する。</li> <li>帰りの支度に限らず、行動が遅れてしまう子には、みんなと間に合うように競争のようにしてみたり、一度にやろうとせず一つ一つ順番にやってみたりと、声掛けを個別に変えている。</li> <li>自分の気持ちや考えを自発的に伝えられなかったり、行動することが苦手な子どももいるので、それに気づき声をかけ、かかわりの時間を作れるように日ごろからしっかりひとり一人に気を配り、向き合い、平等に関わっていきけるよう努めていきたい。</li> </ul> |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> <li>給食事務、調理員の自己評価</li> </ul>                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>給食は子どもたちが発達していく上で極めて大切なものであることを理解し、日常の業務を行っている。</li> <li>業務上知りえた情報を、理由なく家族や知人に話さない。</li> <li>園長や保育者など職員間のコミュニケーションが取れている。</li> <li>子どもが給食を楽しみだと感じるように配慮している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが給食をしっかり食べ栄養を取り、心と身体が成長するように毎日調理を行っている。なるべく調理済みの食材を使わず、野菜の煮物や和え物、魚料理といった現実的に家庭で調理しなくなっている献立も多く取り入れた。</li> <li>明るく気持ちの良い挨拶や会話を心がけ、思いやりのある言葉で職員間のコミュニケーションをとるようにした。</li> <li>子どもが給食を楽しみに感じるように、また皿の中で汁が混じり合わないようフィルムケースを使い盛り付けを工夫している。</li> <li>アレルギー児への給食は、保護者から「保育生活における」アレルギー疾患生活管理指導表」の提出を受け、アレルギー児の除去食状況を調理室に大きく掲示。また専用の食器を用意し「食物アレルギー・除去食 対応マニュアル」に沿って調理、提供する。</li> </ul>   |

|   | 自己評価の観点   | 主な自己点検の内容   | 保育の振り返り 自己評価   |
|---|---|---|--|
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> <li>給食事務、調理員の自己評価</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>アレルギーのある子どもに対して、個別の状態に応じて適切な対応が取れている。</li> <li>乳児ひとり一人の育ちについて職員間で連携を取り、それぞれに合った離乳食を作っている。</li> <li>子どもの様子を見たり、子どもの担任の話を書く機会を設けている。また職員会議で給食内容の検討をする。</li> <li>厨房設備の清掃や整理整頓、換気、採光、室温に気を付ける。</li> <li>調理をする際、健康や怪我をしないように気を付け、安全衛生に細心の注意をしている。</li> <li>給食調理が衛生的かつ安全に行われるように電解水生成装置を活用し、食中毒や感染症の予防に努めている。</li> <li>複数調理員で調理の分担を確認し、共通理解して調理をする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>調理室での確認、食事の受け渡し時、保育室での配膳から食事まで、誤食や事故の無いよう連絡し合いながら配食した。</li> <li>離乳食の始まった子どもの食事は、調理室、担任、家庭で量や柔らかさ、子どもの体調等、連絡を取り合いながら進めた。刻み食の子は噛む力の発達に合わせて、保育者と相談しながら、徐々に大きさの調節をした。</li> <li>子どもの健康状態により揚げ物を焼いたものに変えたり、食材を変更したりし対応した。</li> <li>設備や器具の不具合が生じた際は園長に伝え、迅速に対処した。</li> <li>害虫駆除を定期的に行い、水道水の水質を週2回確認し、厨房内の整理整頓を心がけ、食器類、器具の熱風消毒を毎日行った。</li> <li>電解水生成装置で抽出した酸性・アルカリ性電解水で食品殺菌から調理器具の洗浄除菌まで行い、子どもたちの衛生管理に役立てた。</li> <li>気温が高い日はスポットクーラーを使い、温度管理に注意をした。</li> <li>複数の調理員で作業しているため、声を掛け合い、チェックしアレルギー児や未摂取の食材を持つ離乳食中の子どもへの提供には特に注意を払った。</li> </ul>   |
| 9 | <ul style="list-style-type: none"> <li>園長、主任の自己評価</li> </ul>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>保育の基本</li> <li>保育過程の編成</li> <li>健康 安全管理</li> <li>保護者支援</li> <li>資質向上に向けた姿勢</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスで行事等が規制され、令和5年に5類に移行したが、園行事は以前の形に戻ることが難しく、保護者の方の参加人数の制限も残っている。職員間でも行事計画の段階で話し合っているが、特に室内開催のお遊戯会に関してはクラス単位の発表となったままである。保護者2名であるが室内でゆったり着席し、きちんと観ることができ、騒がしくなくビデオが撮れるという利点が保護者も納得しているが、兄弟、祖父母も観たいと言っているという意見があるのも聞いている。どう進めて行くのか迷うところだ。</li> <li>コロナやインフルエンザ等、職員は自主的に常にマスク着用し、子どもたちもうがい、手洗いが習慣化している。感染性の疾患が発生すれば張り紙やお便りでお知らせし予防に努めてもらっていた。<br/>保育者たちも子どもたちとの接触は特に強く、職員は体調管理に留意させ、少しでも体調不良がみられるときは受診を促し、元気で保育できるようにしてきた。</li> <li>保育は保育者が楽しみ、子どもたちも一緒に楽しむのが一番だと考えている。子どもたちの元気な声や保育者の明るい挨拶が保護者とのコミュニケーションの第1歩で、保護者とも役員活動を通じて協力してもらったり、困ったことの相談にも応じ、共通のものとした。</li> <li>発達に弱さがみられる子や一定の援助が必要とされている子等、適切な療育が受けられるよう保育園での様子を保護者と共有し、関係機関の連携を仰ぎ対応した。</li> <li>キャリアアップ研修を計画的に申し込み、受講を勧めた。受講した職員は復命し、保育に役立てた。</li> <li>地域社協主催の「ふれんどりい」、まちづくり推進委員会の「サロンこうづ」など3歳以上の子どもたちが順番に参加し、世代間交流を楽しみ、地域の方々に可愛がってもらっている。</li> </ul> |

|   | 自己評価の観点  | 主な自己点検の内容  | 保育の振り返り 自己評価  |
|---|--|--|---|
| 9 | <ul style="list-style-type: none"> <li>園長、主任の自己評価</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>保育の基本</li> <li>保育過程の編成</li> <li>健康 安全管理</li> <li>保護者支援</li> <li>資質向上に向けた姿勢</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>各規程集、業務継続計画、保育安全計画、各種マニュアルを日常生活に活用し、事故を防止したり、水遊び、午睡、感染症等を未然に防いだり予防することを続けていく。</li> <li>人権のためセルフチェックリストは保育者ひとり一人が自分の保育に対する振り返りをし、子どもへの良い関わりあいを築くきっかけとなるが、クラスの中で手のかかる子どもも多く、時に「園長先生にお話を聞いてもらいます」と、手を引かれ事務室を訪ねてくる子もいる。メディアで保育者の様々な不適切行為を報道しているが、心を痛める。そうならないように職員が助け合って、みんなで保育園を運営するような気持ちを持たせてきた。「ひとりはおみんなのために、みんなは1人のために」の言葉を良く口にしてきたが急に勤務の交代や、手が足りなくなったクラスへの応援、体調の悪そうな職員への配慮、なにより行事なども相談には乗るが、自分たちの手で計画、準備から片付けまで、どんな係になっても（多少心の中ではあるかもしれないが）きちんと責任を果たしてくれ、職員の成長を感じる。</li> </ul> |